

3. 日本産肉研究会 第9回学術集会

日時：2012年3月30日 於：名古屋大学東山キャンパス

主催：日本産肉研究会

「福島第一原発事故の教訓から今後の資源循環型畜産を再考する」

1) 福島県における農畜産分野の放射能汚染の概況と課題

小池一正(福島県畜産農協連合会 参事)

東日本大震災後の原発事故により警戒区域、計画的避難区域の経産牛 2,000 頭、繁殖肉牛 3,500 頭が失われた。これらの区域以外では放射性ヨウ素などの暫定基準値を超えた農・畜産物が発現し野菜・牛乳などが出荷制限された。7月に放射能汚染稲わら給与肉牛が出荷され、基準値を超える牛肉の流通から出荷制限が指示された。このような一連の経過と対応状況が紹介された。

2) 産直活動を通じた放射能汚染牛肉の安全性確保方策

風間与司治(東都生協 常務理事)

原発事故後の放射能の食品汚染に対応した行動としてチェルノブイリ事故ご導入した自前のゲルマニウム半導体各種分析装置により残留放射能検査を実施し、組合員消費者に情報提供してきた事例の紹介。産直活動における産地での放射性物質への対処、生協側での検査と広報、消費者との対話集会・学習会の実施

3) 肉用牛および牛肉への放射性物質以降とその検査・推定について

佐々木啓介((独)農研機構 畜草研)

肉用牛および牛肉への飼料中放射性セシウムの移行についての解説。飼料から牛肉への移行は、血中と筋肉中のセシウム 137 濃度は相関があるが、血中濃度は筋肉中の 1/10~1/30。飼料から筋肉への移行；移行係数

移行係数=筋肉中の Cs 量(Bq)/家畜が 1 日に摂取した Cs 量 ……0.0047~
牛肉の検査は前検査品目の 73%に至っている。暫定規制値の 1/2 をこえるものはスクリーニングの対象となる。牛は 18,000~10,000 頭/月が検査されている。